

品種解説：「ひとめぼれ」

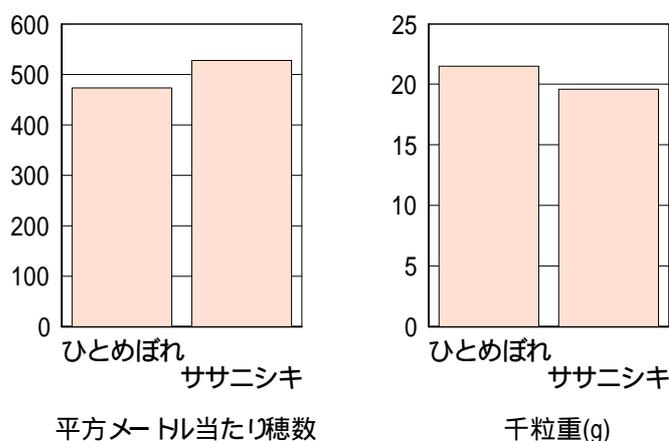
概要：本品種の障害型耐冷性は「ササニシキ」より明らかに強く、「トドロキワセ」よりやや強い“極強”である。名前の意味は、“光沢、色沢が美しく極良食味であることから、出会った途端に一目惚れするような品種であること”を表現する。

1．来歴の概要

晩生で耐冷性が強く、良食味の「コシヒカリ」を母とし、中生で草姿の優れた「初星」を父として、1982年に宮城県古川農業試験場で交配された。1988年に「東北143号」の系統名が付けられ、1991年に水稻農林313号として登録された。

2．形態的特性

- ・ 稈 長：「ササニシキ」よりやや短い。
- ・ 穂 長：「ササニシキ」よりやや長い。
- ・ 穂 数：「ササニシキ」より少ない、偏穂数型のうるち種である（下図参照）。
- ・ 粒 大：「ササニシキ」より大きい。
- ・ 千粒重：「ササニシキ」よりやや大きい（下図参照）。



3．生態的特性

- ・ 出穂期：「ササニシキ」並みである。
- ・ 成熟期：「ササニシキ」よりやや早く、育成地では“中生の晩”である。
- ・ 収量性：「ササニシキ」並みかやや優る。
- ・ 耐倒伏性：「ササニシキ」よりやや強い。
- ・ 葉いもち抵抗性：“やや弱”
- ・ 穂いもち抵抗性：“中”
- ・ 耐冷性：「ササニシキ」より明らかに強く、「トドロキワセ」よりやや強い“極強”である。
- ・ 穂発芽性：「ササニシキ」より明らかに難で、「トドロキワセ」並みの“難”である。

特 性	ひとめぼれ	ササニシキ
耐冷性	極強	やや弱
耐倒伏性	やや弱	弱
葉いもち抵抗性	やや弱	弱
穂いもち抵抗性	中	弱
穂発芽性	難	やや易

4．品質・食味特性

- ・粒張り、光沢が良く、腹白、心白は「ササニシキ」より少ない。
- ・玄米の外観品質は「ササニシキ」より良好で、“上の中”である。
- ・食味は「ササニシキ」に優り極めて良好で“上の上”である。

5．適地等

- ・東北中南部の平坦地、関東以南の早期栽培、および温暖地、暖地の高冷地帯に適する。

6．栽培上の注意

- ・「ササニシキ」より穂数、1穂粒数が少ないので、健苗を育成するとともに、栽植密度を確保し、早期に有効茎数を確保する。
- ・葉いもち抵抗性が「ササニシキ」並みの“やや弱”、穂いもち抵抗性が「ササニシキ」よりやや強いので適期防除に留意する。
- ・種子の休眠性が強いので、催芽前の浸漬は十分に行う。
- ・耐倒伏性は「ササニシキ」より強いが、“やや弱”なので多追肥は避ける。

<参考資料>

農林水産省農林水産技術会議事務局（平成3年6月）：平成3年農林水産省育成農作物新品種（夏作物・園芸作物）。